# 平成30年度 公立大学法人福知山公立大学業務実績評価調書 【小項目別評価】 (抜粋)

<u>氏名</u>

# 項目別の状況

## 第4 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育の賞の向上に関する目標 (1)教育の成果に関する目標 <u>小項目数</u> 27

#### 中期目標

教育研究において、地域、自国、そして世界に対する理想を持ち、教養・専門的知識を生涯にわたって学修し、それを実践する力を涵養する。 特に、地域協働型教育研究を通して、創造的思考力、課題解決力、協働・協調力、コミュニケーション力など、社会人に必要となる基礎能力を涵養する。地域社会そのものを教育の場とした フィールドワークやインターンシップに主体的に取り組み、地域の人や資源を教材とした教育研究を実践する中で、地域社会が抱える様々な課題解決に向け、関係者や関係機関等との協議調整、 企画立案や提案を行うことができる人材を育て、地域社会に還元する。

			法人の自己点検(計画の進捗状況等)		評価委員会による評価結果	
中期計画	番号	年度計画		評価区分		評価区分
1 教育の質の向上に関する目標を達成するが	めの推	<b>*</b>		<u> </u>	日間のハーント、女具女性助子ス	1 81 194 277
(1)教育の成果に関する目標を達成するため		-				
①自由な発想と行動力、分析企画力、実	行力、	・ 公共マインドの洒養				
大学の理念の実現と発展に必要な長期的な戦略を計画し、地域に根ざし、世界に通用する高い専門能力と多角的な視点を持ち、さらに、地域社会の様々な分野におけるニーズに対応した指導的役割を果たせる人材を育成するための自由な発想	1	引き続き、現在進行している新カリキュラムについて、それぞれの科目の配当年次の妥当性 や、科目に位置づけについて検証を行い、ナンバリング案を作成する。	科目の配当年次の妥当性や科目の位置づけについて考慮しつつ、体系性を担保し、科目のカリキュラム上の位置付けや履修の順序を明確にするためにナンバリング案を作成した。 新学部の設置申請に向けて情報学部のカリキュラムを策定した。地域経営学部及び情報学部のナンバリングは、情報学部が開設する2020年度から実施する。	3		
と行動力、分析企画力、実行力、公共マインドを涵養する。	2	学外講師の招聘にあたり、学生の授業評価アンケートなどからその適切性を検証するとともに、授業担当者との役割分担の明確化を図る。	学外講師は、現場の声や最新事情の提供者として、授業担当者が行う講義内容の理解を 深めることを目的として9科目27回(内訳は、1回の科目で4、2回の4科目が4、13回の科目が 1)で行われた。学生からは「さまざまな自治体・団体の話が比較できてよかった」、「現在取り 組んでいる事例を知ることができた」などの声があり有益であった。 また、教務委員会においてシラバスのチェックを行い、事前に学外講師の招聘予定の有 無、その適切性について確認し、1授業あたりの学外講師の回数などについても検討した。			
②行動・実践の基盤である生きていくた	めの総	合力(人間力)を涵養する教養教育の重視				
幅広い視野と豊かな人間性を涵養し、創造的思考力、課題解決力、協調・協働力、コミュニケーション力といった社会人基礎力など、行動・実践の基盤である生きていくための総合力(人間力)を涵養するためにインターンシップ等も取り入れた教養教育を実践する。		語学教育の強化を図るため、英語教員を新た	の2019年度の内容について、グローカルな内容を意識して日本及び現地の地域課題の検	3		
	4	就業体験を通じて社会を知る学修機会として のインターンシップについて過半の学生が履 修することを目指す。	2018年度から課題解決型のインターンシップを全学生を対象として実施した。とりわけ就職活動を控える3年生には積極的に参加を促し、地域経営学科3年生51人(2016年度入学者は3年生のみ履修可能)中38人(74.5%)であり、目標を大きく達成した。医療福祉経営学科3年生は病院実習を行った。	3		

1

3 理論と応用の学びを踏まえた実践・実 ※ 5 - 5 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	<del> </del>				
様々な地域課題に対し、質の高い理論に よる専門教育と地域協働型の実践教育を 通じ課題解決能力を養成し、協議調整や 全画立案を行うことができる人材を育 て、地域社会に還元する。	5	評価や指導力法に関する指針を作成し、美践教育を実施する。	評価や指導方法に関する指針の統一のため、接業「アカデミックスキル」(論文の調べ方、書き方等の指導)の共通テキスト『知の技法』を作成した。2018年度に作成した2冊目となるテキストには、キャリア意識を高める内容などを盛り込んだ。	2	
<b>④主体的な学びの支援・推進</b>					
学生のリーダーシップやモチベーション を向上させる取り組みを進めるととも に、ワークショップ等のグループ学修を 含め、共感性を養いながら学生自らが主 体的に学修を進めるアクティブ・ラーニ ングを推進する。	6	学生プロジェクト等の課外活動への単位付与を検討する。	学生プロジェクトの単位化について教務委員会で検討し、2019年度から試行的に「グローカル特別講義」での単位認定を実施することとした。単位認定要件としてはプロジェクトで合計90時間以上の活動を行うことかつメンバー全員が活動を申請し、活動計画及び成果報告書提出させ、評価することとした。教務委員会で審査し、2単位を認定する。	3	
	7	ポートフォリオ小委員会を立ち上げ、学修ポートフォリオを作成し、試行する。	ポートフォリオについては、教学情報システム上で実施する予定であったが、当初の導入スケジュールよりも半年ほど遅れたため、ポートフォリオ小委員会で内容の検討を進められず、試行することができなかった。しかし、2019年度前学期には試行的に導入する予定である。	2	

# 第4 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育の質の向上に関する目標 (2)教育の内容等に関する目標 ①学位授与に関する目標

## 中期目標

基本理念・目的を踏まえ、どのような人材を育成し、どのような力を身に付けた者に学位を授与するのかを定める基本方針として、ディブロマ・ポリシー(学位授与の方針)を明確化し、学生の 学修成果目標を明示する。

中期計画	番号 年度計画	法人の自己点検(計画の進捗状況等)		評価委員会による評価結果		
	世で	<b>平及</b> 前闽	計画の実施状況	評価区分	評価のポイント、委員会確認事項	評価区
育の質の向上に関する目標を達成するため	めの措	置				
教育の内容等に関する目標を達成するため	めの措	<b>置</b>				
学位授与の明確化						
本学が育成する人材像に基づき、ディプロマ・ポリシーを明確に定め、教育の成果に関する目標に基づく教育と評価により、学生及び社会に対して教育の質を保証する。	8	りに授業が展開されているか検証するとともに、 実態把握のために教員間の授業参観の実施 を検討する。 GPA(成績評価係数)の基準について、より公	授業評価アンケート結果に基づく教員間の授業参観は、参加率を高めて効率的に実施するためにここ2年、試行的にオープンキャンパスで実施した。シラパス通りに授業が展開されているかの実態把握については、授業評価アンケートで検証し、オープンキャンパス時の授業参観でも情報の共有が図られた。 2017年度の成績評価の分布について敬務委員会で整理し、情報共有した。また、2019年度以降、教員間で授業評価アンケート結果を共有することとした。 GPAのガイドラインについては4回にわたって教務委員会で検討したが、ガイドラインの設定については相対評価の部分的導入につながるという意見もあり、決定には至らなかった。			

# 第4 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育の質の向上に関する目標 (2)教育の内容等に関する目標 ②教育内容・手法の充実に関する目標

## 中期目標

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針として、カリキュラム・ポ

アイプロマ・ボリンーの達成のために、どのような教育味性を触放し、といような教育に合う力はなどにし、オシルボとといように町間するツルでんかる金田リなのまして、ペッ・エッ・・リシー(教育課程編成・実施の方針)を明確化する。 リシー(教育課程編成・実施の方針)を明確化する。 また、社会や学生のニーズに照らして、教育内容とその手法について常に最適化を図るため、カリキュラム(教育課程)の見直しとファカルティ・ディベロップメント(授業方法・内容を改善・向上させるための組織的な取り組みの総称をいう。)を推進する。

中期計画	番号	年度計画 ————	法人の自己点検 (計画の進捗状況等)		評価委員会による評価結果	
7.77.0.1		1 - 1 - 1	計画の実施状況	評価区分	評価のポイント、委員会確認事項	評価区分
1 教育の質の向上に関する目標を達成するため (2)教育の内容等に関する目標を達成するため		_				
②教育内容・手法の充実	が指					
ア カリキュラムの充実等						
ディブロマ・ボリシーを踏まえた明確なカリキュラム・ポリシーを策定する。併せて、各授業の到達目標、授業計画、成績評価の方法と基準等を明示したシラバスの充実化を図る。	9	方法と基準等を明確にしており、その基準通り 時期の早期	は11月(昨年は1月)に作成にとりかかり、2月に概ね完成し、昨年度に比べて制作期化を図ることができた。また、教務委員会においてシラバスが基準通りに作成さいチェックし、修正を行うなど、シラバスの充実化を図ることができた。	3		
イ ファカルティ・ディペロップメント (	FD) (					
教育に関する自己点検・評価を行うとともに、外部評価を定期的に受審する。また、外部評価を定力ルティ・ディベロップメント (PD) に関する研修、他大学教育人会や教育手法の改善に活用する。併せて、学生の授業評価を定期的に実施し、教育活動の改善に反映する。	10	施日、研修 (1)4月2 (2)6月2 (4)8月2 (4)8月2 (5)9月1 (6)9月2 (7)9月2 (8)9月2 (10)10月 (11)11月 (12)ふる (13)12月 (14)12月 (16)1月3 (16)1月3 (18)2月(19)3月 (19)3月3 (19)3月	ティ・ディベロップメント (FD)活動を以下のとおり定期的に実施した。以下に、実	3		

価などについての研修会、勉強会を実施する。(年間2回程度)	FDフォーラムにおいて、外部講師を招聘し、アクティブラーニングやPBLについての研修会を実施した。また本研修会においてアンケートを実施し、このアンケートを集計して教員間で情報共有を図った。FD委員会ではアンケート方式による教員へのフィードバック(研修会のアンケート集計の配付と集計を受けての意見聴取)を2回行った。また、FDとも関連して地域協働型教育研究をテーマにした紀要別冊を刊行した。	
	授業評価アンケートと教員側からのフィードバックを科目ごとに整理して、教員に配付し、 活用しやすくした。過去のデータについては、既に当該教員に配付している。	
	学生から評価の高い授業について、オープンキャンパスなどにおいて担当教員の模擬授業を実施し、他の教員が参観した。授業としては、8科目実施し、参加者は延べ26人であった。参観した教員から、学生の巻き込み方や説明の仕方など、他の教員の手法に触発されたなどのフィードバックがあった。	
	地域協働型教育研究会を本学において開催し、他大学で評価の高い授業や教育活動を 学ぶこを目的として外部講師を招聘し講演してもらうとともに本学教員との地域協働型教 育に関する意見交換等を2回行った。 また、学内の教員間の意見交換会を個別に10回行った。	